

平成 29 年 2 月 7 日

守谷市議会議長 殿

委員長： 川名 敏子 印

報告者： 神宮 栄二 印

## 都市経済常任委員会 視察・研修報告

標記の件について、次のとおり 実施 参加 したので報告します。

視察・研修日	平成 29 年 2 月 6 日 (月)	
視察・研修場所	神栖市市議会事務局 神栖市役所防災安全課	
視察・研修項目	防災ラジオの活用について	
参加者	守谷市側	都市経済常任委員会 川名委員長, 長谷川副委員長, 渡辺 (大) 委員, 神宮委員, 高梨 (隆) 委員, 渡辺 (秀) 委員, 梅木委員 市川副議長 交通防災課 高橋課長, 岡田主事 議会事務局 望月係長
	相手側	神栖市議会 議長 大槻 邦夫氏 議会事務局 宮本局長, 宮沢主査 防災安全課 額賀課長, 長島課長補佐, 菅崎主幹
視察・研修目的	・ 防災ラジオの導入経緯・経費について ・ 防災ラジオの運用について ・ 導入のメリット・デメリットについて ・ 利用する市民の声について ・ 現状と課題 等	
視察・研修内容	防災ラジオの導入から運用までの行政の取組及び施設見学と 防災ラジオの発信試験。	

<p>視察・研修総括 (今後の取組み等)</p>	<p>ポケベルの周波数を使った防災ラジオのシステムを、実際に体験することが出来て大変有意義であった。</p> <p>配信アンテナの工事費が3693万円と思ったより安価で、ラジオは1台約1万円を自己負担2000円で販売している。</p> <p>放送はパソコン入力した文字を音声変換したもので、機械的な音声であった。しかしこの電波は市内全域受信可能で、災害時は非難するときに持っていけるのも心強い。更に「FM鹿島」や「茨城放送」とも災害協定を結んでいる。</p> <p>神栖市は、市内225か所に防災行政無線のスピーカーが設置されている。その為か、防災ラジオを購入した人は1500人と思ったより少なかった。</p> <p>今回の視察研修を参考に、守谷市に最適な災害時の情報伝達手段を検討していきたい。</p>
------------------------------	--

<p>視察・研修内容</p>
<p>事務局 宮本局長の司会で開会</p> <p>大槻議長より神栖市訪問について歓迎の挨拶。</p> <p>防災安全課額賀課長より視察研修説明資料に基づき、「防災ラジオ」の導入経緯、導入経費、運用方法、導入のメリット・デメリット、利用する市民の声、現状と課題について説明がなされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入の経緯は防災行政無線を実施していたが、聞こえないとの市民の意見への対策がコスト増となり、メールマガジンを導入した。高齢者から、パソコン・携帯電話の利活用が出来ないとの声があり、「防災ラジオ」のシステム開発会社東京テレメッセージ(株)安価なシステムを開発したとの情報に対し、平成25年6月に「防災ラジオ」導入をした。</li> <li>・導入経費は早期に開発会社と取り組んだお蔭で、既に完成していたシステムを使い「防災ラジオ」の購入と合わせて安価でシステムを構築できた。(ラジオ3千台を含め、67,716千円)</li> <li>・運用は、既存の防災行政無線とは別途に運用、メールマガジンとは連動し、専用パソコン操作で一括して配信している。時間外は消防本部の職員が対応し24時間運用を可能にしている。</li> <li>・メリットは送信出力が高く、電波の到達性、受信性及び浸透性が優れており、市内全域に電波を送信することが出来ている。防災行政無線の個別受信機より「防災ラジオ」の方が安価である。</li> <li>・デメリットは当初、受信出来ない利用者が1%近く発生したが、開発会社のサポートで解消した。</li> <li>・利用している市民からは放送内容の確認(聞き直し機能)が出来るので便利である。テレビの近くでは受信状態が悪くなる等の意見がある。(離せば解消)</li> </ul>

- ・現状と課題では、当初購入した3千台の半数以上が残っており、周知をして普及していかなければならない。申し込みと受け取りの二度手間を嫌がる市民もいる。防災行政無線との別運用で職員が2名必要となっていて、「防災ラジオ」との連動で一括放送が課題。

<システム見学>

- ①システムルーム、②送信アンテナ、③非常用電源、④専用パソコンとラジオ（以上、写真参照）

\*専用パソコンの操作は文書を作成して発信キーを押せば音声はラジオから流れる。（発信文書はファイル保管されており、再利用可）

